

マガン（カモ科） 全長 72 センチ

10月2日、大仙市の上空をマガンの群れが通り過ぎていった。

常に大空を見上げている訳ではなく、コーコーと遠くから聞こえる鳴き声で初めて気づきます。数十羽の小群から、100羽～200羽の大きな群れが次々と飛来。いずれも東の奥羽山脈方向を目指している。

唱歌で「棹になり鉤になり」と歌われたように、綺麗なV字飛行や横一列に変化しながら飛ぶ様子を見ていると、こちらも元気が出てくる気分になります。



成鳥（右）は嘴の根元が白い。左は幼鳥。

この時期、ロシアから渡って来たマガンやヒシクイの殆どは能代市の小友沼から大湯村を經由し、そこから一気に宮城県の伊豆沼方面へと向かいます。

秋の渡りの途中で、大仙市内に降りることは殆どありませんでしたが、10月5日、大浦沼近くの田んぼで4羽のマガンが見つかりました。



夢中で餌を食べている時でも、1羽は頭をもたげて警戒を怠りません。



後方を、新幹線こまちが颯爽と通り過ぎた。

成鳥 2 羽・幼鳥 2 羽が、刈り取りが終わった田んぼで落穂を食べているようです。

周辺は農道を通る車や人影も見当たりませんが 1 羽が頭をもたげて、周囲への警戒を怠りません。近くを新幹線こまちが通り過ぎたが、全く気にする様子もありません。ここでの観察と撮影を一旦終了し、数時間後に再びこの地を訪れた時は、既に東へと飛び去った後でした。



こまちとマガン。この地でしか見られない光景です。



10 月 11 日に飛来したマガン。全体的に体が白っぽいので目立ちます。